



2021年度

(2022年3月期)

決算報告

NSユニテッド海運株式会社

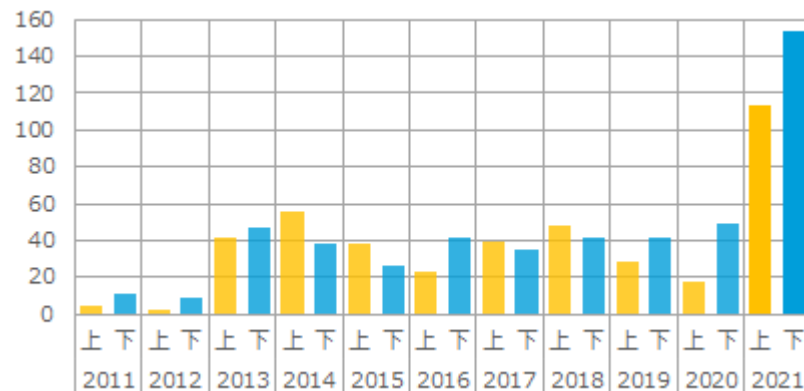
2022年4月28日

目次

1． 2021年度業績ハイライト	 p. 2
2． 2021年度決算の概要	 p. 3
3． 2022年度業績見通し	 p. 4
4． 2022年度市況見通し	 p. 6
5． 中期経営計画 FORWARD 2030 の進捗	 p. 7
(ご参考) 運航船腹構成	 p.10
財務アウトルック	 p.11

1. 2021年度業績ハイライト

半期毎営業利益（単位：億円）



通期業績レビュー

上期 長期輸送契約による安定収益＋市況上昇を捉えたフリー船隊が高収益確保

- ・ 世界経済の回復に伴い、鉄鋼原料、穀物等の海上輸送需要が回復。ドライバルク市況は全船型で上昇しBDI（バルチック・ドライ・インデックス）は13年ぶりに5,000ポイントを上回り、フリー船隊の収益が大きく伸びました。

下期 高市況下で締結した中長期輸送契約が寄与し、上期を上回る収益を実現

- ・ 年明け以降、市況は季節的要因や中国の鉄鋼減産に伴う海上輸送需要の減少等により軟化する局面がありましたが、高市況下で締結した輸送契約が収益アップに寄与いたしました。
- ・ 原油価格上昇に伴い、燃料費が増加いたしました。運賃への転嫁やヘッジ対応により影響は限定的となりました。また、1月以降に加速した円安が追い風となりました。

▶ 当期純利益ベースで過去最高益を達成いたしました。

配当還元 通期で1株当たり285円を見込みます。（前期通期実績80円）

2. 2021年度決算の概要

外航海運 経済活動回復に伴い海上輸送需要が堅調であったことに対し、船腹供給は感染症拡大による滞船増加や船員交代が難航するなどの影響でタイトとなりました。需給の逼迫から海運市況は大きく上昇し、営業利益は249億円と前年比大幅増益となりました。

内航海運 製造・建設セクターの回復や電力需要の増加により鉄鋼関連貨物、電力関連貨物の輸送量は伸びましたが、燃料価格上昇に伴う費用増による影響で、営業利益は18億円と前年比で横ばいとなりました。

以上により、通期の連結業績は前年同期比で営業利益では約200億円の増益、経常利益では約211億円、当期純利益では約175億円の増益となりました。

【連結】 (単位：億円)	2020年度							2021年度							対前年度 通期比
	1Q	2Q	上期	3Q	4Q	下期	通期	1Q	2Q	上期	3Q	4Q	下期	通期	
売上高	316	342	657	359	368	727	1,385	428	469	897	547	515	1,062	1,959	+ 575
営業利益	1	17	18	25	24	50	67	47	66	113	88	66	154	267	+ 200
外航部門	0	12	12	19	19	38	49	45	62	107	83	59	142	249	+ 200
内航部門	1	5	6	7	5	12	18	2	4	6	5	7	12	18	+ 0
経常利益	▲ 3	10	8	22	26	48	55	41	63	105	91	70	161	266	+ 211
親会社株主に帰属する 当期純利益	21	8	29	26	6	32	61	36	52	87	71	78	149	236	+ 175

3. 2022年度業績見通し

事業環境

3大バルクカーゴ、マイナーバルクも含め2022年度も引き続き底堅い輸送需要が予測されます。また、船腹供給量は各船型において低水準が見込まれます。ロシア・ウクライナ情勢による影響は注意を要しますが、2022年度の市況見通しは基調として堅調な推移が見込まれます（次項目 4. 2022年度市況見通しご参照）。為替に関しましては引き続き円安傾向の継続を予測しております。

リスク要因

新型コロナウイルス感染症拡大に伴う行動制限、ロシア・ウクライナ情勢や資源価格高騰等によるインフレが長期化する事態となりますと世界経済を減速させ、海上輸送需要が低下する恐れがあります。配船エリアにつきましては船員、本船の安全を考慮しつつ細心の注意を払い対応いたします。

配当予想

前期中間配当95円に対し、当期中間配当は30円増配となる125円を予定しております。期末配当は中間配当と合算した通期配当として、当社従来方針に基づき連結通期業績の概ね30%とする予定ですが、今後のリスク要因を見極めた上でご報告申し上げます。

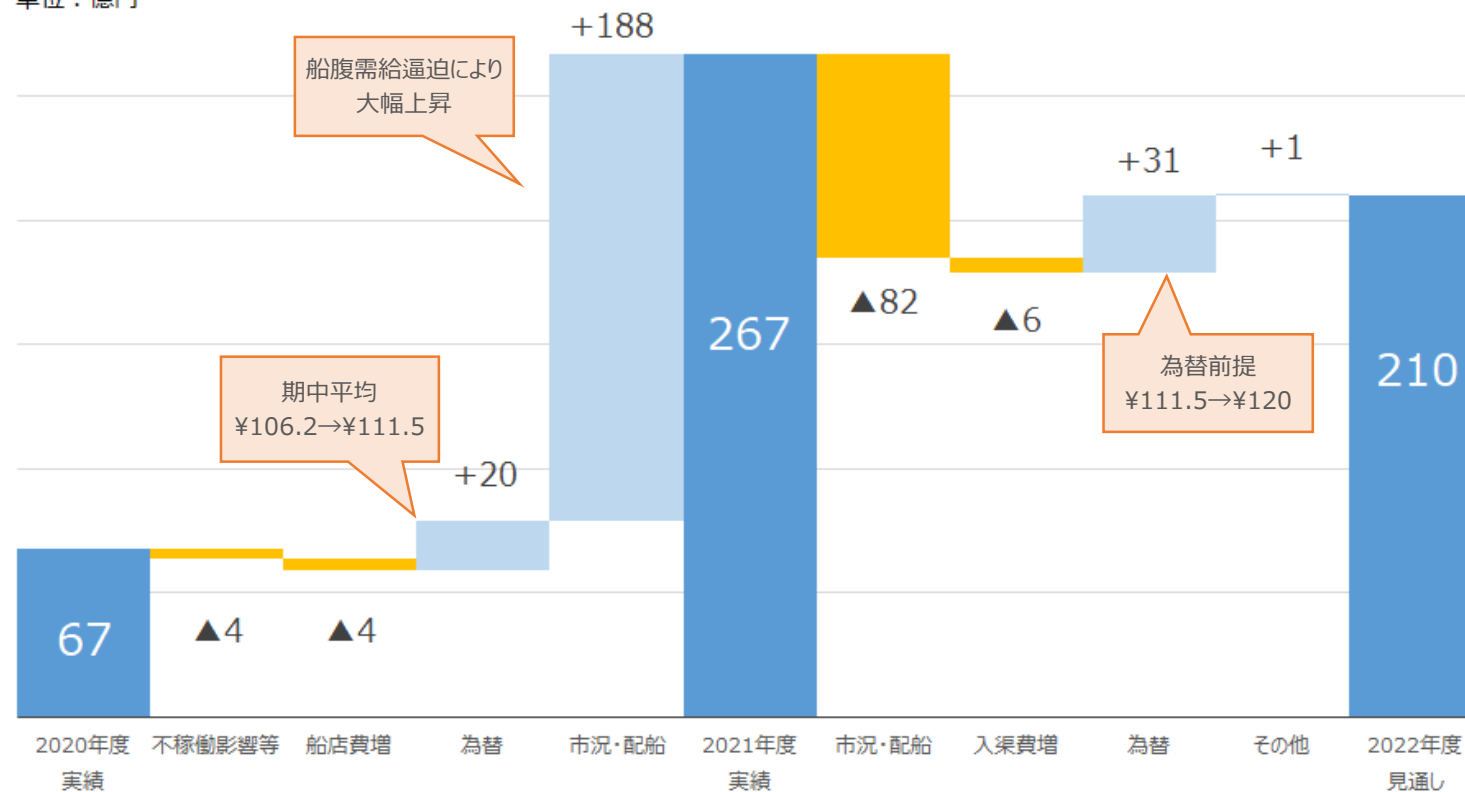
【連結】 (単位：億円)	2021年度			2022年度			前期比 増減
	上期 (実績)	下期 (実績)	通期 (実績)	上期 (予想)	下期 (予想)	通期 (予想)	
売上高	897	1,062	1,959	970	930	1,900	▲ 59
営業利益	113	154	267	120	90	210	▲ 57
経常利益	105	161	266	110	90	200	▲ 66
親会社株主に帰属する 当期純利益	87	149	236	93	85	178	▲ 58

	2021年度			2022年度		
	上期	下期	通期	上期前提	下期前提	通期
為替	¥109.33	¥113.67	¥111.50	¥120.00	¥120.00	¥120.00
市況 ケープサイズ	\$36,928	\$28,471	\$32,733	\$26,000	\$20,000	\$23,000
パナマックス	\$29,961	\$26,186	\$28,089	\$22,500	\$20,000	\$21,250
スモールハンディ	\$27,504	\$27,668	\$27,585	\$21,000	\$16,000	\$18,500

3. 2022年度業績見通し

◆ 営業利益の推移（2021年度実績～2022年度見通し）

単位：億円



市況上昇により収益を拡大

機会を捉えて高収益を維持

4. 2022年度市況見通し

3大バルクカーゴ、マイナーバルクも含め2022年度も引き続き底堅い輸送需要が予測されます。また、船腹供給量は各船型において低水準が見込まれます。ロシア・ウクライナ情勢による影響は注意を要しますが、2022年度の市況見通しは基調として堅調な推移が見込まれます。

海上輸送需要見通し

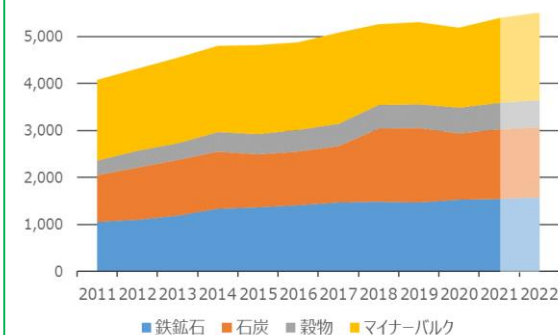
鉄鉱石：世界の鉄鋼生産は、緩やかながらも持続が予測される中国の輸送需要に加えて、インドをはじめとする中国以外の国々でも一定の生産量の増加が見込まれており、鉄鉱石の輸送需要も堅調な推移が予測されます。

石炭：一般炭は、脱炭素の流れにより先進国での消費割合は減少見込みであり、中国やインドの国内生産量が回復していることから、輸送量の減少が予測されます。原料炭は、鉄鋼生産の回復に伴い一定の輸送需要が期待されます。また、EUの対ロシア炭禁輸措置については、今後の代替輸送等への影響を見極めていく必要があります。

穀物：世界人口の増加等を受け、中国に加えて中東、アフリカ、アジアの新興国向けを中心に輸送需要が見込まれ、堅調な推移が予測されます。但し、ウクライナの穀物輸出量には影響が出る公算が大きいとみられ、今後の輸出量の減少や代替輸送需要の動向には注意が必要です。

マイナーバルク：世界的な産業の回復基調が見込まれる中、非鉄金属、鋼材等を中心に安定した輸送需要の伸びが期待されます。

海上輸送需要推移（百万ト）



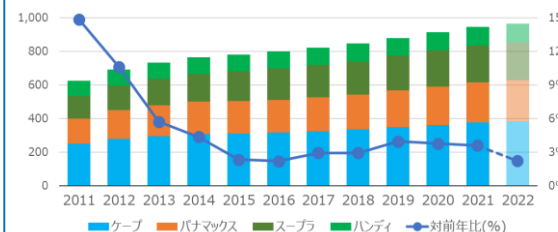
各社資料より当社調べ

ドライバルク船腹供給見通し

昨年より上昇を続けた新造船価格は、鋼材や資機材の値上がりの影響等を受け先行きは不透明です。加えて、温室効果ガス排出量削減や環境規制対応に伴う船舶の陳腐化リスクへの懸念等から、引き続き船主によるドライバルクの新造船発注には一定の慎重な姿勢が見られます。こうした状況下、2022年内の竣工予定船腹量は全船型において低い水準が見込まれ、市場における船腹の供給圧力は抑えられる見込みです。

また、中国の一部地域では厳しい感染対策がとられているなど、新型コロナウイルス感染症の影響は根強く残り、各国港湾の最新規制やそれに伴う船腹稼働率や滞船状況への影響が、一定程度続くと思われます。

ドライバルク船腹量見通し（百万DWT）



各社資料より当社調べ

現時点における2022年度先物指標

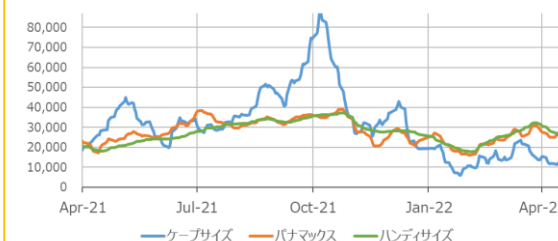
船型	2022年度平均
ケープサイズ	\$26,100
パナマックス	\$25,700
スモールハンディ	\$24,600

4/19付 先物指標値より算出

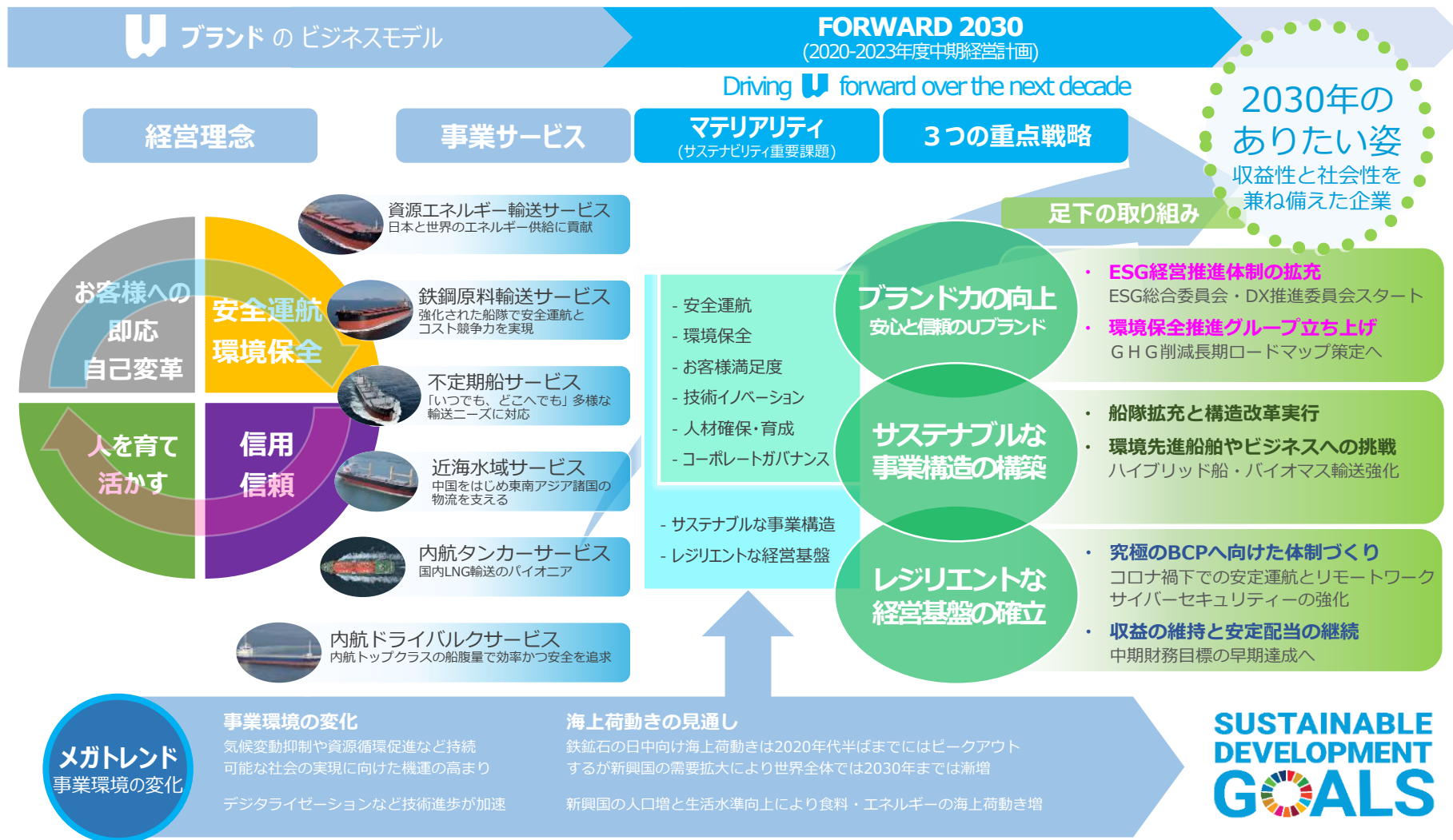
足元はブラジル出し鉄鉱石不調の影響が残るものの、安定した輸送需要からケープ市況は高い水準での推移が期待されています。パナマックス以下の船型も、水域や配船先によりロシア・ウクライナ情勢の影響が聞かれ始めているものの、堅調な輸送需要が市況を支えています。これにより、現時点における2022年度先物指標は当社業績予想の市況前提を上回る水準で推移しています。

船型別市況推移（\$/day）

出典：Baltic Exchange



5. 中期経営計画 FORWARD 2030 の進捗



※FORWARD 2030 : 2020年5月発表

5. 中期経営計画 FORWARD 2030 の進捗

サステナブルな
事業構造の構築

ブランド力の向上

レジリエントな
経営基盤の確立

<2020年度>

- 20.06 NSU QUEST 日本水先人会連合会より「ベストクオリティシップ2019」受賞
- 20.08 日本初リチウムイオン電池搭載型内航鋼材船「うたしま」
「シップオブザイヤー2019」を受賞（内航）
- 20.10 ESG総合委員会発足 / 環境保全推進グループ設立
- 20.10 BCP強化、感染対策として在宅勤務制度化
- 20.09 バイオマス燃料運航船「いぶき」竣工（内航）
- 21.01 広野IGCCパワー殿向け省エネ型電子制御エンジン船
「みらい」（15,000MT）竣工（内航）

21.05 帆を利用した風力による低燃費技術の共同研究を発表

- 21.07 GHG排出量に日本海事協会による第三者検証証明書取得
- 21.09 LNG専焼エンジン+バッテリーハイブリッド推進システム船建造合意（内航）
- 21.06 アンモニア燃料船に関し23社で共同検討協議会発足

21.10 アンモニア燃料船プロジェクトがグリーンイノベーション基金事業に採択

22.03 日本製鉄殿向け大型鉱石船でバイオディーゼル燃料による試験航行を実施

22年度 CO2の更なる削減に向けた目標強化を検討

- ▶ 省エネデバイス導入や燃料消費節減のため運航サポートシステムの研究
- ▶ 荷主様の脱炭素化ニーズへの貢献

<2021年度>

- 21.05 NSU TUBARAO 日本水先人会連合会より「ベストクオリティシップ2020」受賞
- 21.09 投資評価にICP（インターナル・カーボンプライシング）を試験導入
- 21.10 サステナビリティ基本方針策定、パーパス設定
- 22.03 財務目標（営業利益100億・ネットDER1.0以下）達成

<2022年度以降>

海上物流で、
共に世界の今をつくる責任、
未来へつなぐ責任をはたす
（NSユナイテッド海運 パーパス）

22.04 東証プライム市場に移行

- ▶ 外部環境変化に対するリスクマネジメント強化

**FORWARD
2030**



（いぶき）



（ハイブリッド推進システム）



（NSU BRILLIANCE）



（うたしま）



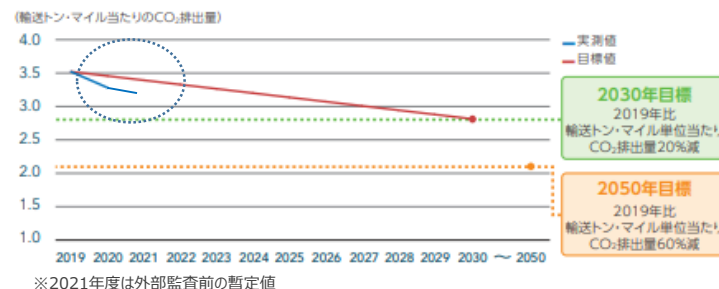
（NSU TUBARAO）

5. 中期経営計画 FORWARD 2030 の進捗

●CO2排出量削減実績

2030年目標である「2019年度比輸送トン・マイル単位当たりCO2排出量20%減」に対し、計画を上回る成果をあげております。今後、2050年目標実現のためには特に代替燃料の導入や燃料節減に向けた革新的な新技術、研究開発が求められます。

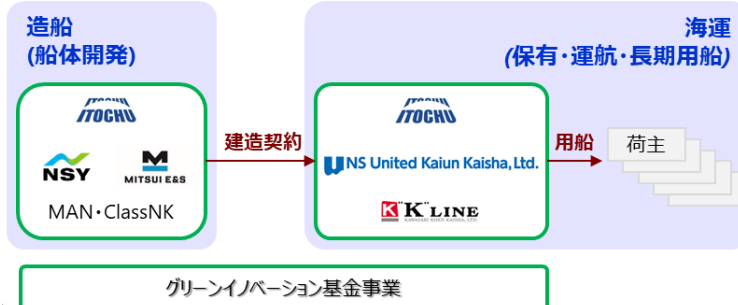
2030年中期目標達成状況(単体)



●研究開発事例

<アンモニア燃料船共同プロジェクト>

多数の関係者で進めている「次世代舶用燃料として期待されるアンモニア利用の共同研究」が新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）の「グリーンイノベーション基金事業」に採択されました。本プロジェクトは2028年までのできるだけ早期にアンモニア燃料船を日本主導で社会実装し、他国に先駆けて推進システム・船隊開発と保有・運航を目指すものです。



<風力推進装置搭載による自然エネルギーの利用>

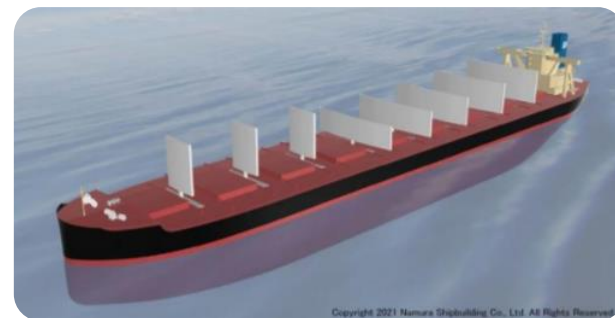
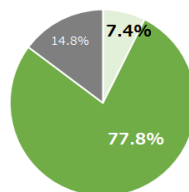
風力の活用によって燃料節減を目指すべく、硬帆船やローターセイルの検証、研究を進めております。

●社内教育・モチベーション向上

環境保全に関する情報、動画を定期的に社内でも共有し、社員一丸となって環境目標達成に向け取り組んでおります。

動画を視聴して、SDGsへの関心は高まりましたか？

- 非常に関心が高まった
- 関心が高まった
- その他



(本船帆走時のイメージ図)

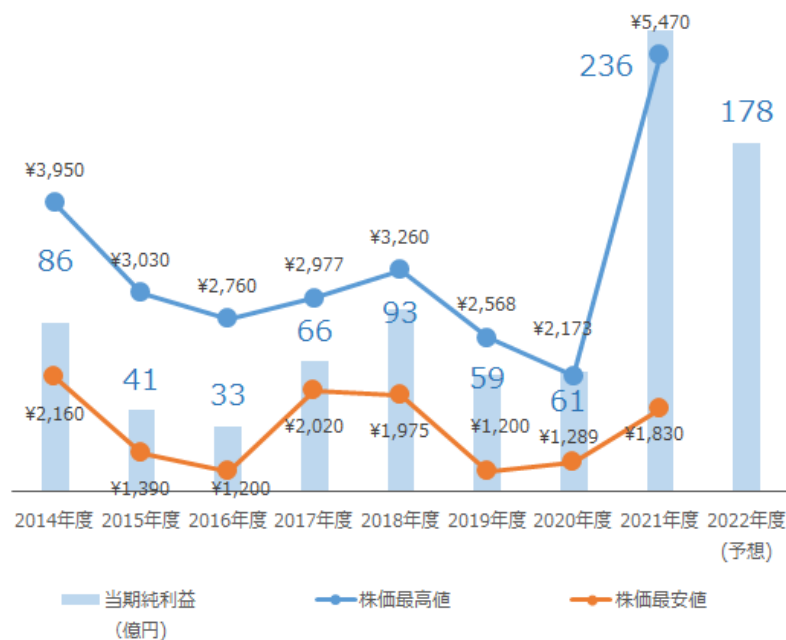
(ご参考) 運航船腹構成

船種	2021年3月末 合計	2022年3月末			21/3末比 増減
		所有	用船	合計	
鉄鋼原料船	52隻	28隻	23隻	51隻	▲ 1隻
中小型バルカー	72隻	10隻	63隻	73隻	+ 1隻
LPG/原油タンカー	3隻	3隻	0隻	3隻	+ 0隻
外航船 小計	127隻	41隻	86隻	127隻	+ 0隻
内航船	71隻	22隻	49隻	71隻	+ 0隻
合計	198隻	63隻	135隻	198隻	0隻

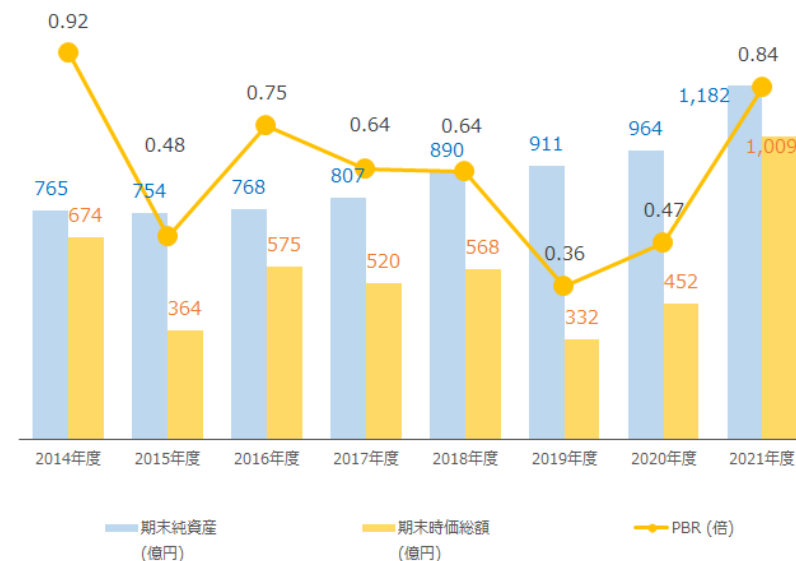
*運航船舶数には短期スポット用船も含まれております。

(ご参考) 財務アウトルック

当期純利益と期中株価の推移



期末純資産・時価総額

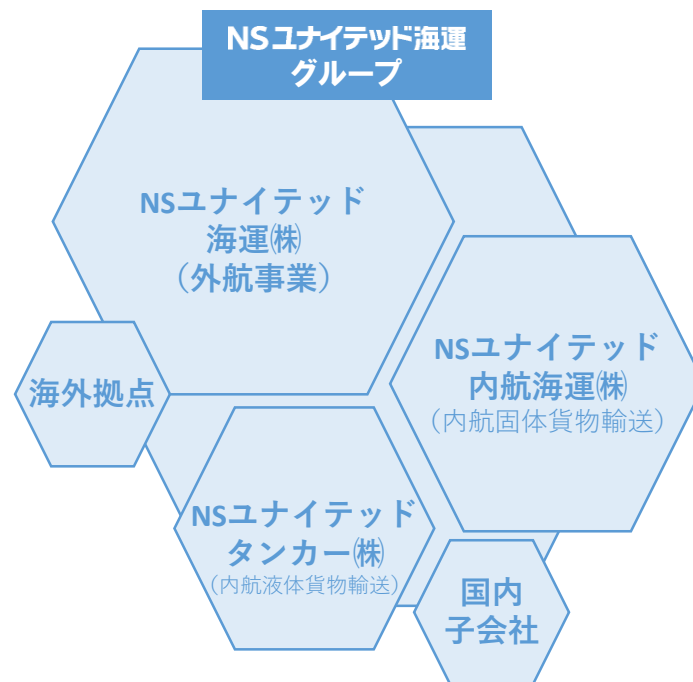


NSユニテッド海運株式会社

NSユニテッド海運グループは、
誠実で良質な海上輸送サービスの提供を通じて
社会の発展に貢献します。

(本資料に関する注意)

本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、当社が本資料発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は様々な要因により異なる可能性があります。



当社ウェブサイト：<https://www.nsuship.co.jp>

本資料についてのお問い合わせ先：03-6895-6411